

大手企業から。 カーブアウト ベンチャー を創出するには

- 東京大学・理研 副理事
 - 東京大学エクステンション
代表取締役社長
 - 理研鼎業 取締役
 - 東大TLO顧問
- 山本 貴史

これまでの議論から

- この研究会のメンバーはスタートアップ（SU）に理解がある人
- 起業家主導型にフォーカスしている点はGood！ 事業会社主導型では出口が無い。
- 「リングに上がらなければファイトマネーは貰えない。」は名言。
- イノベーションのジレンマは今も起きている。
- そもそも大手企業で許容できる事業規模とSUの事業規模は違う。
- 事業会社の事業ドメインと全く違うモデルは許容され辛い。
- 多くの新事業はダメなところを挙げればきりが無い。
- 水本委員の指摘は正しい。ただ、大学発SUと大手スピンオフの違いは、機密漏洩だけではなく、大手を辞めるという決断も大きな壁となっている。

山本もリクルートからのカーブアウトのようなもの

経営者をどんどん排出する（昔の）リクルートの文化や制度

- 新規事業を作った人が一番褒められる会社。
- 気軽に新規事業を作って、気軽にやめる会社。（5年で黒字）
- 出入りが自由な組織。一回辞めた人が気軽に再就職でき、ずーっといた人より出世することも普通にある会社。
- 1985年時点で、40歳フレックス定年制度。（40代は少ないのに）
- 辞めて起業したら、1000万円もらえる制度。（今は出資）
- 社内の人材募集（人事異動）も極めて簡便。



これらを実施すればどこの企業も企業文化・風土は変わる

提案

- リクルートの様な制度を実行することが上場基準や会計制度上問題があるのであれば、これを緩和してはどうか？
- 優先株の変形で『特別優先株』という制度を創設してはどうか？
企業が特別優先株を持った場合、一切経営に口出しは出来ないが、配当（剰余金）が他より高く、会社清算時に最も優先的に残余財産を受け取れる株式を作る。これだとA社が出資していても、その競合であるB社は、そのSUとビジネスがし易い。